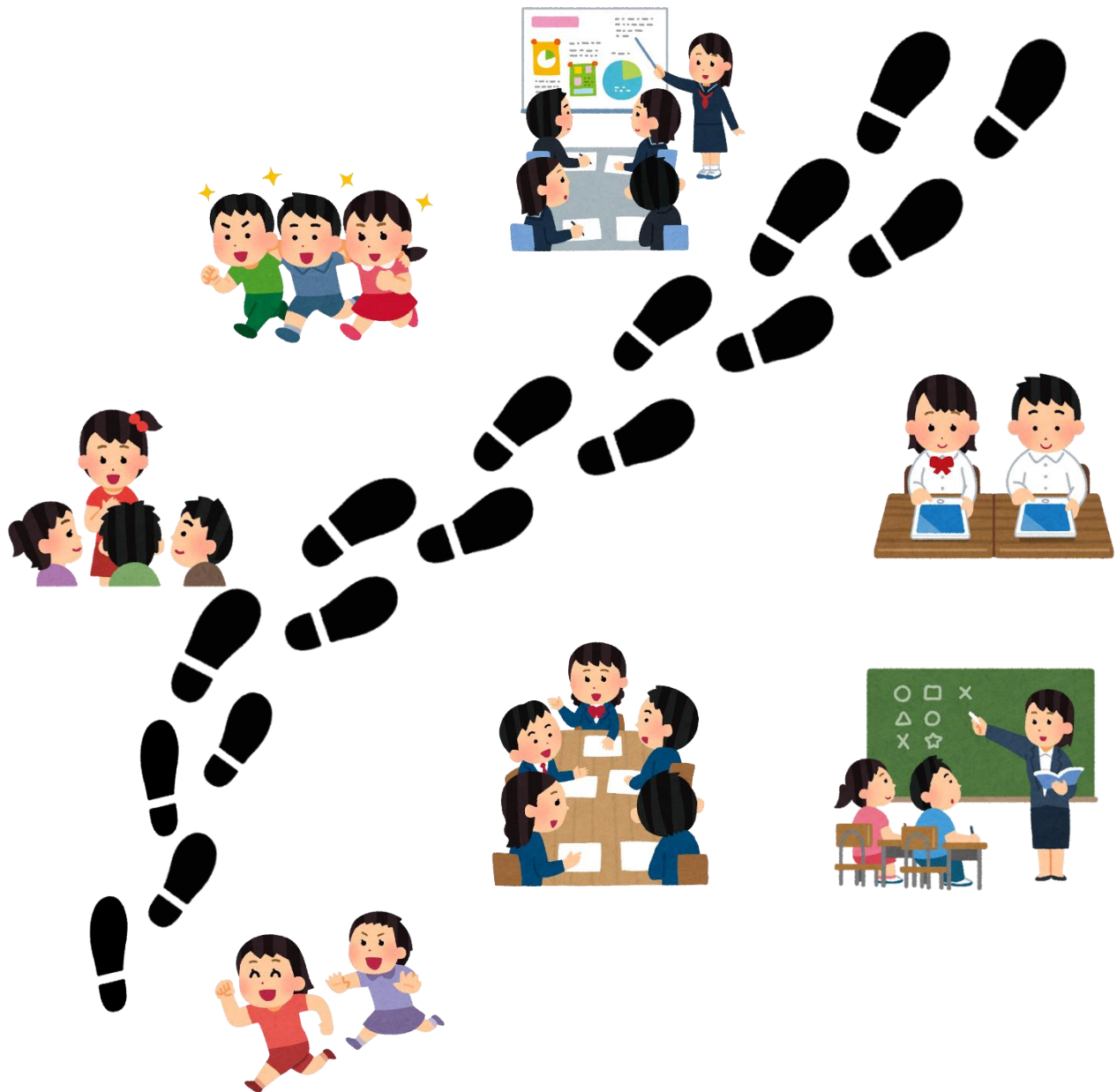


亀山市学力向上推進計画【第4版】

令和5年度～令和7年度



令和5年3月 亀山市教育委員会

はじめに

近年、児童生徒を取り巻く社会情勢は刻々と変化し、人工知能によるイノベーションや、IoT等、第4次産業革命の到来による情報技術の飛躍的な進化等を背景として、経済や文化などのあらゆる分野でのつながりが、国境や地域を超えて活性化し、グローバル化が進展するなど、先を見通すことが困難な時代へ移行しつつあります。このような時代を生き抜くため、子どもたちには、新しい時代を創り、生き抜くための資質・能力を育てていく必要があります。

これまで本市では、平成26年度に「亀山市学力向上推進計画」を策定し「生きる力」を育むために必要となる、児童生徒一人ひとりの「確かな学力」の向上をめざした取組を進めてまいりました。「第2版」「第3版」と取組を重ねる中で、全国学力学習状況調査の教科に関する調査において、小学校国語科において全国平均正答率並みになるなど成果が見られました。また、重点取組の一つである「めあて・ふりかえり」の取組を中心とした、授業改善を進める中で、教員一人ひとりが授業でつきたい力を明確にした授業づくりを意識できるようになるとともに、子どもたちも学びを見通して授業に取り組むようになってきました。

一方、「読む・読み取る力」や「算数・数学的思考力」に関わる問題で課題が残されている他、自ら主体的に社会と関わり、課題をみつけ解決していく力やさまざまな経験や体験を通して、人と関わりながら自己肯定感や自己有用感を高めていく必要があります。また、若手教職員の増加や複式学級をもつ学校の増加、1人1台端末の導入等、今日的課題にも対応していかなければなりません。亀山市教育委員会といたしましても、チームによる指導体制を支える多様な人的支援や教育環境整備などさまざまな取組を進めます。行政と学校がともに家庭と地域へ働きかけ、子どものよりよい学習習慣・生活習慣の確立に向け、取組を進めてまいります。

この3年間の計画を進めることを通して、可能性に挑み、人と関わりながら、未来を創る子どもたちが育まれることを願っています。

亀山市教育委員会
教育長 中原 博

目 次

第1章 亀山市学力向上推進計画の改訂にあたって

1. 計画改訂の背景と趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第2章 亀山市学力向上推進計画【第4版】の基本的な考え方

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第3章 今後の取組について

1. 具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2. 取組内容と指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

【参考資料】

1. 令和2年度～令和4年度までの取組の進捗・・・・・・・・ 14

1. 計画改訂の背景と趣旨

(1) 改訂の経緯

近年、人口知能（AI）の発達や超スマート社会（Society5.0）の到来など、情報技術の飛躍的な進化を背景として、あらゆる分野でのつながりが国境等を超えて活性化し、多様な人々や地域間が緊密につながる状況が進展しています。このような社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっており、全ての子どもたちの生き方にも影響を及ぼすものとなっています。

国においては、平成29年に幼稚園教育要領や小学校・中学校学習指導要領等が告示され、令和3年度までに全面実施となりました。「これからの幼稚園・学校には、教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人ひとりの幼児・児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながらさまざまな社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。」とされ、これからの時代を生き抜く幼児・児童生徒が社会において活躍できる人材となるために必要な力が示されています。

本市においても、令和4年度から8年度までの5年間を計画期間として「亀山市学校教育ビジョン」を改定し、取組を進めております。そこには、めざす子どもの姿として掲げている「可能性に挑み 人とつながり 未来を創る『亀山っ子』」の育成のため「亀山っ子」に関わる全ての大人が一丸となって子どもたちに寄り添い、連続性をもたせながら取り組むことが掲げられています。また、平成26年度に「亀山市学力向上推進計画」を策定しています。令和2年度からは「亀山市学力向上推進計画【第3版】」のもと、子ども一人ひとりの「確かな学力」の向上をめざした取組を進めてきました。

全国学力学習状況調査結果を見ると、小学生の国語科は全国平均正答率並みとなりました。小学校で国語科「書くこと」の領域では、全国平均正答率を5ポイント以上上回り、中学校においても、「書くこと」の領域で改善がみられています。また、「平日授業以外に読書を10分以上する」と肯定的回答した児童の割合も全国を5ポイント以上上回りました。さらに、小中学校ともに「学校が楽しい」と肯定的回答をした子どもの割合が全国平均を上回るなど一定の成果が見られます。一方、国語科の「読むこと」の領域や算数・数学においては、全国平均正答率を下回る結果が近年続いており、子どもたちの力が十分についていない現状です。また、「自分にはよいところがある」「1日あたり60分以上勉強する」「総合的な学習の時間に自分で課題を立てて学習活動に取り組む」等の質問について肯定的回答が全国平均を下回るなどの課題がみられます。今、「思考力・判断力・表現力等」を中心とした学力向上のために、「主体的・対話的で深い学び」による授業が重視されています。そこで、「思考力・

判断力・表現力等」の向上に加えて学習内容を深く理解する力を育む「協働的探究学習」を核とした学びの質を高める授業改善に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」を具現化してまいります。また、一人ひとりの自己肯定感・自己有用感を高める、家庭での過ごし方等、学校・家庭・地域においてさらなる連携が必要です。家庭・地域と連携しながら、誰一人取り残さず子どもたちの学力向上を図ってまいります。

(2) 位置づけ

本計画は、「亀山市学校教育ビジョン」が教育スローガン「亀山っ子一人ひとりの可能性を引き出そう！」のもと、全ての子どもたちが「確かな学力」を身に付け、新しい時代に必要とされる「生きる力」を身に付けることをめざし、具体的な取組内容及び指標等を示すものです。

各学校においては、本計画を基盤としながら地域や子どもの実態に応じた特色ある学力向上の取組を展開し、全教職員が共通理解のもとに組織的な協働を図り、授業改善等に向けて積極的に取り組みます。

教育委員会においては、本計画に示す取組を実行し、取組の進捗状況や成果について把握・検証するとともに、各学校の取組について支援・指導を行います。

また、教育行政、園・学校（教職員）が共通理解のもと徹底した取組を行うとともに、家庭や地域、関係機関等にも理解・協力を求め、連携・協働し、市民一体となった教育活動を進めてまいります。

(3) 実施期間

本計画は、令和5年度から令和7年度までの3年間を実施期間とします。

なお、取組の進捗状況について年度ごとに把握し、必要性を見極めながら適宜見直し・改善を行います。



第2章

亀山市学力向上推進計画【第4版】の基本的な考え方

目標

子どもたち一人ひとりの自己実現と10年先にも役立つ
「確かな学力」の向上

2つの視点

Agency (エージェンシー：変化を起こすために、自分で目標を設定し、ふり返り、責任をもって行動する能力)

「新しい時代を生き抜いていく力の育成」

Well-being (ウェルビーイング：幸福で、全てにおいて満たされた状態)

「誰一人取り残さない、みんなを大事にする」

3つの柱

「学び」と「育ち」の連続性

I 学びを高める（質的授業改善）

授業力向上、教師力向上を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ります。

II 個を支える（育ちの支援）

誰一人取り残さない教育の実現を目指し、一人ひとりの未来をつなぐための取組を進めます。

III 絆をつなぐ（「たて」「よこ」の連携と協働）

学力を高める基盤となる仲間づくりや学習環境の充実を目指し、学校と家庭・地域、園・小学校・中学校が目標を共有し系統性・連続性を踏まえた取組を進めます。

◆本計画における「確かな学力」とは、新しい時代に必要とされる「生きる力」を知的側面から捉えた力であり、生きて働く「知識・技能」（何を理解しているか、何ができるか）はもちろんのこと、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」（理解していること・できることをどう使うか）、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）を含めたものと捉えます。

1. 具体的な取組

I 学びを高める（質的授業改善）1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- (1) かめやま授業デザインスタンダードの取組
 - ①かめやま授業デザインスタンダードによる授業実践
 - ②かめやま授業デザインスタンダードチェックシートの活用
 - ③かめやま授業デザインスタンダードプチ動画の活用
 - ④定期テスト等の問題改善
- (2) 1人1台端末の活用の推進
 - ①効果的な1人1台端末の活用の推進
 - ②プログラミング、思考ツールの活用の推進
- (3) 基礎基本の定着を図る取組
 - ①eライブラリの活用の推進
 - ②各種ワークシート等の活用
- (4) 小規模校における学びのあり方の検討
 - ①「複式学級指導の手引き」をもとにしたわたりの授業の推進
 - ②小規模校同士の交流機会の設定
- (5) 総合的な学習の時間を通じた教科横断的な学びの充実
 - ①教科との関連を図る総合的な学習の時間カリキュラムの作成
 - ②学習の基盤となる資質・能力の重点項目の育成

2 「読む・読み取る力」「算数・数学的思考力」の育成

- (1) 「読む・読み取る力」の育成を図る取組（よむ×よむ）
 - ①読書、音読、歌、文章⇔図表、グラフ、お絵かき などとき等
- (2) 「算数・数学的思考力」の育成を図る取組（マス×マス）
 - ①計算、具体物操作、説明活用問題（生活）、重点単元設定 等
- (3) 「読む・読み取る力」「算数・数学的思考力」を測る評価活動
 - ①小学校国語科確認テストの実施
 - ②シンキングテスト（算数・数学科）の実施

3 教師自身の学びの活性化

- (1) 研究指定校等による研究の推進
 - ①研究指定校による研究の推進

- ②「アクティブ ラボ」(主体的研究校)による研究の推進(複式授業、読む・読み取る力、算数・数学的思考力、生徒指導、1人1台端末活用、起業体験教育等)
- (2) 教師力向上研修の充実
 - ①「かめやま情熱アカデミー」の実施
 - ②授業力パワーアップ研修会の実施
 - ③中学校区における研修の充実
- (3) 校内研究体制の充実
 - ①学校課題解決に向けた組織マネジメントの機能の向上
 - ②学校評価と関連付けたカリキュラムマネジメントの推進
 - ③授業改善・学校改善に向けた校内研修体制の充実

Ⅱ 個を支える (育ちの支援)

1 確かな児童生徒理解の取組の充実

- (1) 人権教育カリキュラムの活用と改善
 - ①中学校区ハンドブックを活用しての連携した取組の充実
 - ②人権(なかま・くらし・いのち等)の視点をテーマにした総合的な学習の時間(人権総合学習)の企画と推進
- (2) Q-U、生活アンケート等の各種アンケートの実施と活用の充実
 - ①Q-U、生活アンケート等各種アンケートの実施
 - ②Q-U、生活アンケート等各種アンケートの効果的・具体的活用の取組の充実
 - ③教育相談による児童生徒の実態把握の充実

2 個別最適なきめ細かな教育の充実

- (1) 習熟度別学習や自由進度型学習等の少人数指導の充実
 - ①目的に応じて、児童生徒が自分の学びを選択して学習できる機会の設定
 - ②県の事業(「わかる授業推進事業」等)における取組の推進
- (2) 学習支援ボランティアの活用
 - ①保護者や地域人材の積極的な活用
 - ②大学生ボランティアの積極的な活用
- (3) 平日と長期休業等における補充学習の充実
 - ①学びの定着に応じた補充学習の取組の充実
 - ②学習支援事業「学習教室」による学習の機会の提供

3 特別な支援を必要とする児童生徒への教育支援の充実

- (1) 個別の児童生徒理解・教育支援シート等の作成
 - ①個別の教育支援計画・指導計画、児童生徒理解・教育支援シート等を基にした指導と支援

- ②保、幼、認、小、中の連携の強化
- ③進路相談、進路指導の充実
- (2) ICT を活用した学習機会の保障
 - ①学習の機会の提供
 - ②児童生徒の実態に応じた学習指導と支援

Ⅲ 絆をつなぐ（「たて」「よこ」の連携と協働）

1 中学校区における園・小学校・中学校のつながりの強化

- (1) 中学校区ハンドブック（研修、人権等）による連携体制の構築
 - ①中学校区ハンドブックの作成
 - ②拠点校を中心とした取組の充実
 - ③園、学校研修担当者会議の開催
- (2) 中学校区相互授業参観等による交流の充実
 - ①相互授業参観等の実施
 - ②教職員及び幼児、児童生徒の交流の場の設定

2 学びに向かう集団づくり

- (1) 笑顔の絶えない学級づくりの取組の充実
 - ①特別活動（学級活動）の充実
 - ②レジリエンスを育む取組の実践
- (2) 笑顔の絶えない学校づくりの取組の充実
 - ①縦割り班活動（話し合い、遊び、掃除等）の充実
 - ②異学年で学び合う機会の設定
 - ③学習したことの発表の機会の設定

3 家庭・地域とともに

- (1) 学習習慣の確立と生活習慣の定着
 - ①「お茶の間10選（実践）」の取組の充実
 - ②家庭学習の取組の充実
 - ③「うち読」による読書活動の推進
- (2) 地域の教育的資源を活用した授業づくり
 - ①地域教材を活用した授業の取組の推進
 - ②PBL型授業を活用した地域課題の解決に向けた取組の推進
- (3) 学校・地域・家庭の互恵的関係の構築
 - ①学校運営協議会を核とした教育活動の推進
 - ②保護者、地域の方々等の参画・協働の取組の推進

【取組方法】

各校において毎年度重点取組を設定し、3年間計画的に取り組む。★の取組については必須とする。

2. 取組内容と指標

I 学びを高める（質的授業改善）

I 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R 4	目標値 R 7
(1)	<p>かめやま授業デザインスタンダードプランの取組 ★ 【教育支援G】</p> <p>①「かめやま授業デザインスタンダード」を全小中学校で継続的に活用した授業を実践する。 ②「かめやま授業デザインスタンダード」のチェックシートを学期に2回以上活用し、授業改善を図る。 ③「かめやま授業デザインスタンダード」のプチ動画を学期2回以上視聴し、授業改善を図る。 ④年3回以上、定期テスト等作成における研修会を実施し、問題と評価方法の改善を図る。</p>	<p>「勉強が好きですか」の質問項目で、肯定的回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙及びみえスタディ・チェックアンケート等）</p> <p>国語科と算数・数学科の思考、判断、表現の平均正答率が全国平均を上回る。（全国学力・学習状況調査）</p>	<p>小： 62%</p> <p>中： 63%</p>	<p>小： 65%</p> <p>中： 66%</p>
(2)	<p>1人1台端末の活用の推進 【教育支援G】 【教育研究G】</p> <p>①学習者用デジタル教科書を活用した授業や持ち帰りを週1回以上実施する。 ②思考ツールや共同編集機能を活用した授業を週1回以上実施する。</p>	<p>「授業において、1人1台端末をどの程度活用していますか」の質問項目で、「毎日」活用していると回答した児童生徒の割合（児童生徒アンケート回答）</p>	<p>小： 19%</p> <p>中： 20%</p>	<p>80%</p>
(3)	<p>基礎基本の定着を図る取組 【教育支援G】</p> <p>①児童生徒1人あたりが、年間120回以上「eライブラリ」にログインする。 ②1人1台端末を児童生徒1人あたり年間70回以上持ち帰りさせ学習させる。 ③市・県作成のワークシートを日常的な指導・家庭学習において、月2回以上活用する。</p>	<p>国語科と算数・数学科の知識技能の平均正答率が全国平均を上回る。（全国学力・学習状況調査）</p>	<p>小 1/2 教科</p> <p>中 0/2 教科</p>	<p>小 2/2 教科</p> <p>中 2/2 教科</p>

(4)	<p>小規模校における学びのあり方の検討 【教育支援G】</p> <p>*「複式学級指導の手引き」をもとにしたわたりの授業を推進する。</p> <p>*小規模校同士の交流機会に年2回以上参加する。</p>	<p>授業をよく理解している子どもの割合（複式指導をしている学校の学校評価アンケート肯定的回答）</p>	—	85%
(5)	<p>総合的な学習の時間を通じた教科横断的な学びの充実 【教育支援G】</p> <p>①教科との関連を図る総合的な学習の時間カリキュラムの作成をする。</p> <p>②各校で設定した学習の基盤となる資質能力の重点項目を意識した授業を実践する。</p>	<p>各教科で学習したことが総合的な学習の時間に役立っていると回答した児童・生徒の割合（児童生徒アンケート肯定的回答）</p>	<p>小 91%</p> <p>中 89%</p>	<p>小 94%</p> <p>中 92%</p>

2 「読む・読み取る力」「算数・数学的思考力」の育成

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R4	目標値 R7
(1)	<p>「読む・読み取る力」の育成を図る取組 【教育支援G】★</p> <p>①「よむ×よむ」を活用した授業実践等を週1回以上実施する。</p> <p>②学校図書館、市立図書館を積極的に活用した授業を行う。</p>	<p>国語科の平均正答率が全国平均を上回る。（全国学力・学習状況調査）</p>	<p>小 -0.4</p> <p>中 -2.7</p>	<p>小 +0.1以上</p> <p>中 +0.1以上</p>
(2)	<p>「算数・数学的思考力」の育成を図る取組 【教育支援G】★</p> <p>①「マス×マス」を活用した授業実践等を週1回以上実施する。</p> <p>②「Think!Think!」（県事業）実施校において、週2回以上活用する。</p>	<p>算数・数学科の平均正答率が全国平均を上回る。（全国学力・学習状況調査）</p>	<p>小 -1.9</p> <p>中 -4.3</p>	<p>小 +0.1以上</p> <p>中 +0.1以上</p>

(3)	「読む・読み取る力」「算数・数学的思考力」を測る評価活動の充実★ 【教育支援G】 *小学校国語科確認テスト、シンキングテストを実施する。	小学校国語科確認テスト (国語科)における重点問題の正答率	—	60%
-----	--	----------------------------------	---	-----

3 教師自身の学びの活性化

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R4	目標値 R7
(1)	研究指定校等による研究の推進 【教育支援G】 ①各中学校区拠点校における取組を推進する。 ②「アクティブ ラボ」(主体的研究校)による取組を推進する。	自主的研究指定校の学校数	—	4校
(2)	教師力向上研修の充実 【教育支援G】 ①教員及び大学生を対象とした「かめやま情熱アカデミー」を開催する。 ②指導主事及び指導教諭等による授業力パワーアップ研修会を実施する。 ③中学校区における研修の充実を図る。	「勉強がわかりますか」の質問項目で、肯定的回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙及びみえスタディ・チェックアンケート等)	小： 85% 中： 84%	小： 88% 中： 87%
(3)	校内研究体制の充実 【教育支援G】 ①管理職研修を3種類以上のテーマで実施する。 ②学力向上研修会を2回以上実施する。 ③授業改善・学校改善に向けた校内研修の充実を図る。	「学校の研修を通して学びが深まっているか」の質問項目で肯定的回答した教員の割合(教員アンケート)	97%	100%

Ⅱ 個を支える（育ちの支援）

Ⅰ 確かな児童生徒理解の取組の充実

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R4	目標値 R7
(1)	人権教育カリキュラムの活用と改善 【教育研究G】 ①中学校区人権教育カリキュラムの作成及び見直しをする ②全学年における人権の視点をテーマにした総合的な学習の時間のカリキュラム作成と実施。	中学校区人権教育カリキュラムに沿った授業を保護者や地域へ年1回以上公開した学校数	—	14校
(2)	Q-U、生活アンケート等の各種アンケートの実施と活用の充実 【教育研究G】 ①Q-Uの年1回実施と結果を活用した研修会を実施する。 ②アンケートや教育相談による児童生徒の実態把握の充実を図る。	「困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という質問に肯定的回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙）	小： 68% 中： 70%	小： 71% 中： 73%

2 個別最適なきめ細かな教育の充実

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R4	目標値 R7
(1)	習熟度別学習や自由進度型学習等の少人数指導の充実 【教育支援G】 【学事教職員G】 ①県の事業等における習熟度別学習を実施する ②自由進度型学習を実施する。	「授業の内容はよくわかる」という質問項目に肯定的回答した児童生徒の割合（「わかる授業」アンケート）	小： 86% 中： 80%	小： 89% 中： 83%

(2)	学習支援ボランティアの活用 【教育支援G】 ①地域の学習ボランティアを積極的に活用する。 ②大学生等の学習支援ボランティアの積極的に活用する。	全小中学校での学習指導員やボランティア等による学習支援の実施（学習指導員やボランティア等を活用して学習支援を行っている学校数）	11校	14校
(3)	平日と長期休業等における補充学習の充実 【教育支援G】 ①学びの定着の進度に応じた補充学習の取組の充実を図る。 ②学習支援事業「学習教室」の充実を図る。	全小中学校における補充学習の実施（年間20回以上実施した学校数）	13校	14校

3 特別な支援を必要とする児童生徒への教育支援の充実

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R4	目標値 R7
(1)	個別の指導計画・支援計画、児童生徒理解・教育支援シート等の作成 【教育支援G】 ①特別な支援を必要とする児童・生徒の個別の教育支援計画と指導計画を作成する。 ②個別の教育支援計画及び指導計画等に基づいた引継ぎを実施する。	特別な支援を必要とする児童・生徒の個別の教育支援計画、指導計画に基づいた授業を校内等に年1回以上公開した学校の割合	—	100%
(2)	ICTを活用した学習機会の保障 【教育支援G】 ①学習の機会の提供、児童生徒の実態に応じた学習支援の充実を図る。	個別の指導計画等にICTを活用した学習を位置づけている割合	—	100%

Ⅲ 絆をつなぐ（「たて」「よこ」の連携と協働）

Ⅰ 中学校区における園・小学校・中学校のつながりの強化

	取組内容【担当室】	指標	現状値 R 4	目標値 R 7
(1)	中学校区ハンドブックによる連携体制の構築 【教育支援G】 【教育研究G】 ①中学校区ハンドブックを作成する。 ②拠点校を中心とした取組の充実を図る。 ③園、学校研修担当者会議を開催する。	拠点校を中心とする中学校区の交流会を年2回以上実施した中学校区数	—	3校区
(2)	中学校区相互授業参観等による交流の充実 【教育支援G】 ①相互授業参観を実施する。 ②教員及び幼児、児童生徒の交流の場を設定する。	年1回以上、中学校区における他校への研修会の参加している教員の割合（研究拠点校による研究発表会を除く）（教員アンケート）	67%	80%

2 学びに向かう集団づくり

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R 4	目標値 R 7
(1)	笑顔の絶えない学級づくりの取組の充実 【教育支援G】 【教育研究G】 ①学級活動等の特別活動の充実を図る。 ②各校において、教職員対象のレジリエンスを学ぶ機会を設ける。	「学級生活をより良くするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを活かして解決方法をきめているか」の質問項目で、肯定的回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙）	小： 70% 中： 83%	小： 73% 中： 86%
(2)	笑顔の絶えない学校づくりの取組の充実 【教育支援G】 【教育研究G】	「学校が楽しい」の質問項目で肯定的回答した児童生徒の割合（全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙）	小： 88% 中： 89%	小： 91% 中： 92%

	①縦割り班活動の充実、異学年で学び合う機会を学期1回以上設定する。 ②学習したことを異学年に発表する機会を年1回以上設定する。	及びみえスタディ・チェックアンケート等)		
--	--	----------------------	--	--

3 家庭・地域とともに

	取組内容【担当G】	指標	現状値 R4	目標値 R7
(1)	学習習慣の確立と生活習慣の定着 【教育支援G】 【社会教育G】 ①「かめやまお茶の間10選(実践)」を実施する。 ②家庭学習の取組の充実を図る。 ③読書の宿題を学期2回以上実施する。	「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強をしている」の質問項目で、肯定的回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙)	小： 24% 中： 33%	小： 27% 中： 36%
(2)	地域の教育的資源を活用した授業づくり 【教育支援G】 ①地域資源や地域人材を活用したふるさと教育・キャリア教育を実施する。	「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問項目で、肯定的回答した児童生徒の割合(全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙)	小： 43% 中： 40%	小： 46% 中： 43%
(3)	学校・地域・家庭の互恵的関係の構築 【教育支援G】 ①学校運営協議会を核とした教育活動、保護者、地域の方々等の参画・協働の取組を推進する。 ②学校教育に関するボランティアを積極的に活用する。	コミュニティ・スクールだより等を作成し、地域への情報発信を年3回以上行っている学校数	10校	14校

【参考資料】

1. 令和2年度～令和4年度までの取組の進捗

3つの重点的な取組の進捗状況と検証について

<取組の内容と行動目標>

1 学校力・教師力の向上

(1) 「書く力」・「読み取る力」の育成を柱とする取組の充実

	取組内容【担当G】	行動目標	現状値	実績値	目標値
			R 1	R 4	R 4
①	授業での「ふり返し」活動の充実【教育支援G】 ＊国語科、社会科、算数科・数学科、理科、外国語科を中心とする授業で、各単元の学習中、全ての教科・領域の単元終了時に「ふり返し」の時間を確保し、書く活動を充実させる。	単元の学習中に「ふり返し」を書かせる指導の実施 [教職員アンケート：肯定的回答の割合] (5教科)	単元学習中 85% (参考)	単元学習中 88%	単元学習中 90%
		単元終了時に「ふり返し」を書かせる指導の実施 [教職員アンケート：肯定的回答の割合] (全教科・全領域)	単元終了時 —	単元終了時 88%	単元終了時 80%
②	正しく読み取る活動の充実【教育支援G】 ＊国語科、社会科、算数科・数学科、理科、中学校外国語科を中心とした教科等の学習過程で、文章、図表、グラフ等から読み取ったことを書かせる。	各単元において、複数回、読み取ったことを書く活動の実施 [教職員アンケート：肯定的回答の割合] (5教科)	—	83%	80%
③	「書く力」・「読み取る力」の定着を測る評価活動の充実【教育支援G】 ＊「書く力」・「読み取る力」の育成を重視した授業に取り組み、授業改善に活かすために評価活動を行う。	「書く力」・「読み取る力」の定着を測る評価活動の実施 [教職員アンケート：肯定的回答の割合] (国語科)	—	96%	80%

○ふり返しを書く活動や、「書く力」「読む力・読み取る力」の育成のための取組について意識して取り組むことができている。

▲質の向上が必要である。

(2) 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力）の育成

	取組内容【担当G】	行動目標	現状値 R 1	実績値 R 4	目標値 R 4
①	教科等横断的・小中系統的な視点に留意した教育課程の編成と実施【教育支援G】 *言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を教科等横断的、小中系統的に育成する教育課程を編成し学習を実施する。	教科等横断的・小中系統的な視点に留意した学習の実施 〔教職員アンケート：肯定的回答の割合〕（5教科）	—	91%	80%
②	習得・活用・探究を意識した総合的な学習の時間の充実【教育支援G】 *地域や社会を見つめて、問題解決的な学習を実施し、活動の成果等を文章にまとめたり発表や発信したりする。	総合的な学習の時間における地域等と連携した問題解決的な学習の実施 〔学級担任アンケート：肯定的回答の割合〕	—	78%	85%
③	地域資源・地域人材の積極的な活用によるふるさと・キャリア教育の推進【教育研究G】 *地域資源や地域人材を活用したふるさと教育・キャリア教育を実施する。	ふるさと教育の実施 〔ふるさと教育を実施した学校数〕	—	13校	14校
		キャリア教育の実施 〔キャリア教育を実施した学校数〕	—	12校	14校
		起業教育の実施 〔起業教育を実施した小学校数〕	—	6校	2校

○全ての小中学校において言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を教科等横断的に育成する教育課程を編成し学習進めた。また、地域資源や地域人材を活用したふるさと教育やキャリア教育を実施した。

▲小中系統的な学びを意識した教育課程の編成や取組が弱い。

(3) 教職員の指導力向上

	取組内容【担当G】	行動目標	現状値	実績値	目標値
			R1	R4	R4
①	<p>県教委作成ワークシート、問題データベース等の有効活用【教育支援G】</p> <p>*県教委作成ワークシート・データベース等の教材を日常的な指導・家庭学習に利用する。</p>	<p>日常的な指導・家庭学習における月2回以上の利用</p> <p>[授業担当者アンケート：肯定的回答の割合]</p>	<p>小学校 — 中学校 —</p>	<p>小学校 65% 中学校 50%</p>	<p>小学校 70% 中学校 70%</p>
②	<p>管理職研修の充実【学事教職員G】</p> <p>*管理職のマネジメント能力を向上させる研修会を開催する。</p>	<p>実施回数の確保</p> <p>[テーマの種類]</p>	3種	3種	3種以上
③	<p>教職員研修の充実【教育支援G】【教育研究G】</p> <p>*教職員の指導力向上を図る学力向上研修会を開催する。</p>	<p>実施回数の確保</p> <p>[テーマの種類]</p>	2種	2種	2種以上
④	<p>中学校区内の連携強化と指導の充実【教育支援G】</p> <p>*中学校区内で研究主題を設定し年間を通じて計画的に研究や授業参観を行う。</p>	<p>他校への授業参観</p> <p>[教員1人の参観回数]</p>	—	1回程度(R3)	3回以上

○児童生徒の学習の定着を図るため、県作成ワークシートや問題データベースを活用して指導した。

○管理職及びミドルリーダーの学校マネジメント能力向上に向け学校経営、教育法規、最新の教育課題等に対して研修を実施できた。

▲新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、各種研修会や他校への授業参観が難しい状況が続いた。そのため連携や指導の充実が進んでいない。

亀山市学力向上推進計画【第4版】

平成26年11月策定

平成29年 3月改訂

令和 2年 3月改訂

令和 5年 3月改訂

亀山市教育委員会

〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番

TEL:0595(84)5076 FAX:0595(82)6161

URL: <http://www.city.kameyama.mie.jp/kyouiku>